福井県衛生環境研究センター活動報告　概要

発表演題名	福井県におけるノロウイルスの検出状況
発表学会名	第 52 回北陸信越薬剤師学術大会
発表者名	酒井　妙子（保健衛生部）
開催場所	福井商工会議所
発表日時	令和元年９月２３日（月）　９：００～１２：００
発表内容	平成 28 年度から 30 年度（平成 28 年 4 月～31 年 3 月）に行政検査依頼があった急性胃腸炎集団発生 51 事例 726 検体を検査対象とした。集団発生事例における検体の種類は、有症者由来の糞便または吐物 282 検体、調理従事者および施設職員等由来糞便 201 検体、ふきとり 181 検体、食品 54 検体であった。 集団発生 51 事例 726 検体のうち、37 事例 245 検体（有症者 205 検体、従事者 30 検体、ふきとり 7 検体、食品 3 検体）で NoV が検出された。 検出された NoV の塩基配列について、各事例の代表株を用いて系統樹解析を実施したところ、GⅡ.2 が 19 事例、GⅡ.17 が 10 事例、GⅡ.4 が 6 事例、GⅠ.3 が 1 事例、GⅡ.3 が 1 事例と同定された。年度ごとに最も検出された遺伝子型は、平成 28 年度は GⅡ.2、平成 29 年度は GⅡ.17、平成 30 年度は GⅡ.2 であり、多く検出される遺伝子型について変遷が見られた。 GⅡ.2 は平成 28 年 12 月から平成 29 年 3 月にかけて 14 事例から検出され、GⅡ.17 は平成 28 年 3 月から 5 月に 4 事例、平成 29 年 3 月から 8 月に 5 事例から検出された。これらの遺伝子型については全国でも同様に流行が見られ、変異型が流行したことが考えられた。GⅡ.4 は例年小児散発事例で最も検出される遺伝子型であり、この遺伝子型が検出された事例では小児の感染者の関連が考えられる事例が 3 事例あった。 ノロウイルスの流行状況および検出される遺伝子型は年度ごとに変遷がみられることから、今後も継続して実態を把握する必要があると考えられる。